

390) 水仙の花咲く頃 00.02.25.

水仙の花咲く頃は 我が母の旅に出るとき  
老いた目に涙のありて それぞれに別れを惜しむ  
水仙の花の香りは 病院の部屋にあふれて  
自らの命を誇り 自らの香りを放つ

水仙の花は香れど 春の日はまだなお遠く  
ありがとの一言ありて 目を閉じし気丈な母よ  
ひとときの夢を抱いて 人生の限りを生きて  
香しき匂い残して 永遠の眠りにつきぬ

水仙は雪に埋もれ <sup>けなげ</sup>健気にも香りを放ち  
春浅く野辺の香りに 送られし母の御霊よ <sup>みたま</sup>  
緑なすこの武蔵野の 住み慣れし土に還りて  
水仙の花のごとくに 父のそば静に眠れ

水仙の花咲く丘は 我が母が眠らんところ  
文学と花を愛して メルヘンを彷徨える女 <sup>さまよ</sup> <sup>ひと</sup>  
混沌の時代を生きて 燃えつきし我が垂乳根よ <sup>たれちちね</sup>  
<sup>ふるさと</sup>故郷の大地に還り 安らかに永久に眠れよ <sup>とわ</sup>